婦人と勞働

大正十三年五月三十日印刷　大正十三年五月一日發行（毎月一回一日發行）
大正十二年五月一日第三種郵便物認可

職業婦人改題

五月號

Vol.II.No.II　THE FUJIN TO RODO　May, 1924

(1) 入牢の心を　西田天香著（價十二錢）

(2) 時代苦を苦しむ「現代の經濟生活」改造　松下吉衞著（價二十錢）

(3) 復興改建の精神的基礎（近刊）　中桐確太郎著

光の友パンフレット

(4) 宗教的情操を基調とせる社會運動の提唱（近刊）　松下吉衞著

(5) 一燈園生活問答（近刊）　松下吉衞著

(6) キリスト敎社會主義史（近刊）　松下吉衞著

發賣所
不老閣書店
東京市外大久保百人町九二
振替東京二七〇二一

婦人と勞働（五月號）

第一高等學校教授 文學博士 速水滉著（第十八版）出來

現代之心理學

菊判函入總クロース
上製四百餘頁
定價金三圓
送料拾貳錢

目次及內容抄

第二章 變態心理學（內容抄）

幻覺及錯覺—脅迫觀念—色聽—數型—精神病者—第一比較的永續的な變態現象—有機的疾患と機能的疾患—ヒステリー—人格の變換—夢遊—人格換變の實例—二重人格—意識の分裂—副意識—「サブコンシヤスネス」に關する諸種の見解—副意識の意義—自動書記—其實驗の例—フロイドの精神分析—フロイドの夢の說—フロイド說の批評—精神分析の方法—一時的の變態現象—夢—夢を見る場合—夢の意識と覺醒時の意識—夢の原因—夢の第一種類—夢の第二種—夢の第三種—夢と過去の經驗—デルボーフの夢の例—夢と幼時の經驗—催眠狀態—催眠狀態と普通狀態との比較—棒寄せと觀念運動—催眠狀態と「無念無想」—催眠狀態に於ける特殊な現象—催眠狀態以外の一時的變態現象—參考書

東京市外大久保百人町九二番地 ・ 不老閣書房 ・ 振替口座東京二七〇二一番

婦人と勞働



第二卷　第二號



家族制度と婦人參政運動

平林初之輔

一

婦人運動の究極の目的は、家族制度の廢止にあることは明かである。けれども家族制度が社會生活の重要な要素である間は、如何なる運動が起つても家族制度は事實上廢止することはできぬ。家族制度が事實上消滅したときにはじめて家族制度が法制的に廢止されるのである。

然らば家族制度の現狀は如何。世界の凡ゆる文明國に於て家族制度は今日急速に崩壞しつゝある。それは近世の大規模な産業組織が、從來家庭の人間であつた婦人を社會の人間にしてしまつたからである。從來の婦人は家庭内にあつて夫につかへ子供を育てる以外には、社會に對しては公的の權利も義務もなかつた。

ところが、近代の産業文明は、まづ、從來家内生産に從つてゐた男子の大部分を、工場に、事務所に、會社に、商店に、官廳に、銀行に、換言すれば、社會生産の組織の中へ吸收し、つゞいて婦人をもその中へ吸收しはじめた。

從來、一家の戶主である男子をへて、間接にのみ社會生活に交渉してゐた婦人は、かゝる事情の下に直接

に社會と接觸することになつた。こゝに家族制度崩壞の第一步がはじまるのである。制度上には家庭はまだ經濟生活の單位と見做されてゐる。婦人はまだ財產の所有權なく、子供と共に男子の附屬物と見做されてゐる。婦人の仕事が、家庭の仕事に限られてゐた時代はそれでよかつた。ところが、月給制度、賃金制度は、元來家族制度と兩立しない性質をもつてゐる。雇主は、一家族に賃銀を仕拂ふのではなくて、雇人個人に賃銀を仕拂ふのである。私が受けとる月給は、私一箇人の勞働に對して仕拂はれるのであつて、私が獨身生活であらうと、私が十人の子供をもつてゐやうとそんなことには一向頓着しない。それと同樣に、賃銀制度は婦人に對しても何等參酌しない。婦人が財產權をもつてゐやうとゐなからうと、そんなことには關係なく、婦人一箇人の勞働に對して賃銀を仕拂ふのである。

そこで婦人は事實上にはもう經濟的に獨立したことになる。既にして婦人が經濟的に獨立して來た以上、その家庭にはもはや嚴密な意味で家族制度といふ名稱はあてはまらない。その婦人はもはや經濟的には家庭によりもより多く社會に結びつけられてしまつてゐる。婦人は家庭のための仕事をして家庭から養はれてゐるのでなくて、社會の仕事をして社會から養はれてゐるといふ關係になる。この關係が確立してしまへば家族制度の基礎は完全にこはれてしまうのである。そこで家族制度の破壞者は、新しい女や、新しい思想家などではなくて、近代の產業組織そのものであるといふことになるのである。家族制度は、此等の人々の議論や演說とは無關係に、必然的に崩壞しつゝあるのである。

二

ところが、この基礎の崩壞した家族制度は、制度としては昔のまゝで殘存してゐる。婦人は實際には經濟的に獨立してゐるのに、公的には男子に隷屬してゐる。實際的には婦人は富を生產するのに、公的にはその所有權をもたない。實際的には婦人は社會に直屬してゐるのに、公的には男子をとほしてのみ社會に交涉してゐる。その最も著しい例が政治である。

從來婦人が家庭の一員としてのみ存在し、公的にその存在が認められなかつた時代には、即ち換言すれば家族制度が生活の實狀にぴつたり適合してゐた時代には、婦人は政治に直接關係がなかつたのである。ところが、婦人が社會人として誕生してくると、家庭がもはや政治的に婦人を代表し得なくなる。そして家庭の名によりて男子に隷屬してゐた婦人が、政治的にも男子から獨立して來る必要が生ずる。かういふ事情の下に婦人參政權の要求が起るのである。さうして婦人が家庭からはなれる程度が甚しくなるにつれて、即ち婦人が社會的事業に參與する度合が增すにつれて婦人參政權の要求は熾烈になる。

過ぐる世界大戰は、男子の壯丁を悉く戰線に吸收し、從つて婦人を家庭から急速に社會に吸收した。大抵の社會機關が婦人の手によつて、若しくは婦人の參加によつて運轉された。その結果が、世界大戰の終了前後に於て、各國の婦人に參政權を獲得せしめたのである。

家庭といふ社會生活の單位が、近代の產業組織の作用によりて男女に分解した以上、男子はもはや、自巳

から社會的に獨立した婦人を政治的に代表することはできぬ。その必然の結果が婦人參政權の要求となつたのである。これが婦人參政運動に對する私の解釋である。

三

それはあまり同情のない解釋だと解釋する人があるかも知れない。實際私は個々の婦人の境遇には同情する場合がある。けれども婦人運動そのものには同情もしなければ、反感もゝたない。たゞ當然のことが起るのだと解釋してゐる。婦人參政運動家を正義の先驅者だとも別段思はなければ、生意氣な人間だとも思はない。たゞ以上の理由から婦人運動家が生ずるのは當然だと思ふだけである。

それから又私は婦人が參政權を獲得することによりて、現代の政治が大して改革されるとは期待しない。候補者が婦人の歡心を買ふ必要が生ずることや、婦人に關係のある政綱を標榜する政黨が生ずることや、婦人の候補者がはじめには一人か二人出現し、それが次々に增加することや、婦人の官吏や政治家がぼつ〳〵生ずることなどは確實に期待できるが、それによりてどれだけ社會改革の實をあげ得るかといふ點になると殆んど記すに足るべき結果はなからうと思ふ。何となれば、婦人參政權の獲得そのものが、家族制度の廢止を目的とする連續的婦人運動の一つの小さい結果だからである。婦人が法律上で參政權を獲得した時は、既に、婦人には、それに相應するだけの經濟的の變動が生じてゐるのだからである。而して婦人の參政權獲得は、婦人運動の一歩であつて、婦人運動はまだその先に可成りの過程を殘してゐるからである。

併しながら、婦人參政運動に反對する理由は、どんなにさがして見ても見付からぬ。これに反對するのは太陽が東から出るのに反對すると同じ位無意味である。或る人は婦人に參政權を與へたら家庭はおるすになつてしまうだらうと心配してゐる。かういふ連中は男子のみの普通選擧が實施されたら百姓は鍬をすて、商人は店をすてゝ政治に狂奔するだらうと心配する連中である。婦人に離婚の自由を與へたら夫婦がなくなるだらうと心配する連中である。死刑が廢止されたら世界中の人間がみんな殺人鬼になるだらうと心配する連中である。

また或る人は、今日まで男子だけで別段不都合なしに治まつて來た政治を急にかへる必要はなからうと主張する。それは變らなかつた政治だけを見て、變つた社會生活を見ない人の言である。政治は社會生活に適應して行かなければならぬ。男子だけの政治で不都合が起つたからこそ婦人參政運動が起つたのである。蠶は繭をつくるまでに四五回も皮を脫ぐ。それは舊い皮では生長する身體をつゝみきれなくなるからである。社會の進化もそれと同樣である。社會の實生活が進化するにつれて舊い制度が間にあはなくなる時期が來る。職業婦人の激增、即ち婦人の社會生產參加といふ事實が、舊い政治を不可能にしたゝめに、婦人參政の必要が起つて來るのである。

四

最後に、婦人雜誌や新聞の婦人欄などの投稿欄を注意して見ると困つた現象が眼につく。それは、婦人の

方は相當道理がわかつてゐるに拘らず、男子側にまるで物のわからん人が非常に多いといふことである。そしてどうしてそれ程男子が物がわからんかといふに、大抵それは一つの誤解に基因してゐるやうである。即ち婦人運動は男女の戰ひであるといふことを盲目的に信じ、婦人が勝てば男子が負ける、婦人運動が成功すれば男子が非常な不利な境遇に陥ると信じて、「男子の爲めに」婦人運動を抑壓せねばならぬと考へる誤解である。

婦人運動は勿論男女の戰ひには相違ない。けれども婦人の敵は男子かといふとさうではない。婦人は男子によりて壓迫されてゐるのではなくて制度に壓迫されてゐるのである。勿論その制度から長い間に男子は婦人に對する優越者の自覺をもち、事實上に於ても優越者になつてゐる。けれども、その根本は制度である。アメリカのやうに婦人が男子に靴の紐を結んでもらふ國にでも婦人運動はやつぱり起るのである。

そこで男子は別段婦人運動をおそれる必要はない。婦人運動が成功すれば自分の細君がすぐに飛び出すだらうなどゝ心配する必要はない。家族制度の廢止といふのは、家庭といふものが法律的に認められなくなつて、たゞ私的の男女關係になるといふだけに過ぎないのだ。丁度政教分離によつて、宗教が公的意味を失つて私的の信仰となつたやうに、家族關係が法律的强制から免れるといふだけの話なのだ。況んや婦人參政權の如きは、家庭の私的生活などに何等の干渉をするものでない。家庭をこはすものは、婦人の投票權ではなくて、近代の産業組織なのである。しかもそれは法律的家庭が必要であるのに無理にこれを壞すのではなくて、法律的家庭を漸次不必要にしてゆくといふ形式に於て破壞するのである。それは今日まで行はれてきたことであり、現在も進行中のことなのである。たゞ歴史の進化に無知な人が、現在の變化をまるで知らずに無暗と將來の變化を恐ろしがるだけの話である。（四月五日）

「勞働神聖」と「母性禮讃」

山川菊榮

一

歷史的にも社會的にも、婦人と勞働者とは多くの共通點を有つて居る。有史以來、奴隷として被壓制者として運命を共にして來た此兩者が、近代工業の勃興によつて家庭や農村から驅り出され、相共に勞働市場に殺到し、相共に失業者の大軍を形成するやうになつてから、その運命の類似、利害の一致は益々切實に、顯著になつて來た。

資本主義は智識あり、能率高き勞働者を必要條件とする。けれどもその智識、その敎育は、階級意識を喚起せぬ範圍で、人間としてでなく、生產機械としての勞働者にとつて有利なものに留められねばならぬ。かやうに支配階級による勞働者の敎育は、技術家乃至生產機械としての勞働者の質の改善と同時に、人間としての勞働者の自覺を防止し、抑壓するといふ、二つの廢斥した目的を以て行はれるのが常である。『勞働の神聖』は、支配階級によつて與へられる、實用的な智慧の木の實だけに甘んせずに、禁制の思想的木の實まで味はうとする者に嗅がされる魔醉藥であり、其五體をしびれさせるための呪文である。

資本主義は、單に無產階級の男子のみならず、女子に對しても、その制度を維持し繁榮させるに必要な、

能率の高い勞働者となることを要求する。そこで兎も角も婦人を教育する必要に迫られる。けれども婦人の教育は勢ひ婦人の覺醒と解放の要求とを生んで來る。が婦人の場合には、その覺醒は勞働者として、同時に婦人としての二重の意味をもち、その解放の要求もした、此二重の桎梏からの解放を意味する。婦人を盲從的な點も能率の高い賃銀奴隷並に家庭奴隷としておかうとする女子教育の目的を裏切るものは此解放の要求である。けれども産業上の必要と生活の壓迫とは、婦人を驅つて工場に、事務所に職を求めさせ、其處で得られる或程度の經濟的獨立と人生に對する智識の結果として、必然に旣存の家族制度、旣存の道德に對する疑惑不滿の感を植えつけずにはおかなかつた。かくて婦人の間には、その社會的意義を自覺すると否とを問はず、舊來の生活に反抗し、舊來の道德に反抗してより自由な生活を求めるものが多くなつた。思想的に此傾向を代表したものは、日本では靑鞜社一派の人々であつた。靑鞜社同人の思想がいかに未熟であり、不徹底であつたにせよ、その核心であつた封建的家族制度に對する叛逆と打壞の精神は、近代婦人の解放の要求の根抵であり第一歩であつて、今日なほ益々多くの婦人の間に發生し、成長しつゝあるのである。外國に於ける婦人運動がいつも教育や職業の門放の要求に出發してゐるに引かへ、日本のそれが家族制度への反抗、個人的自由の要求に始まつたことは、日本では他國と違つて封建的家族制度とその强要する道德とが、第一に、そして何よりも痛切に婦人を壓迫してゐた事實を證據立ててゐる。今日では靑鞜社同人の樣に、自己の結婚乃至同棲について一々說明や宣言を發表することは流行おくれとなつてゐる。けれども日本に於ける家族制度と個人的自由との矛盾は、靑鞜社同人等の個人的問題としては解決されても、社會的にはなほ未だ決されてはゐない。隨つて十幾年前かに、彼等が社會の面前で、華やかに戰つた戰ひを、今猶ほ、日本婦

人の大多數は一人一人、默々の裡に戰ひ續けて居るのである。

然し青鞜社の當時に比すれば、職業婦人の數が著しく增加し、一般にその智識程度も高まつて居るだけ、今日の婦人の解放の要求は複雜となり、深刻となりかけて居る。今日の婦人は、單に家庭に於ける個人的自由の要求に甘んせず、進んで種々の形に於ける經濟的、社會的及び政治的權利を得ようとして居る。自由業と筋肉勞働とを問はず、一般に職業婦人の階級意識が男子のそれに比して著しく後れて居り、資本主義の構造全體に對する彼等の不滿は、家族制度に對する場合ほど、一般的に、明白に意識されても居らず、從つて强烈に現はれてもゐないのは事實であるが、然し極度に劣惡な勞働條件や、不當に廉價な賃銀や、其等の結果として起る種々の害惡が、婦人の職業生活の一般化と、智識程度の高い、熟練した職業婦人との增加とに伴つてその注意を惹き、個々の婦人の不滿、個々の虐使冷遇の事件に對する憤りが、徐々に一般的な階級意識に發達しつゝあることは爭はれない。そこで日本婦人の解放の戰ひは、家族制度への叛逆から、資本家階級に對するそれに延長し、發展して來たもので、然も同じ戰ひのこの兩局面を、同時に戰はねばならぬが現在の狀態である。

二

ところで支配階級が女子を教育した目的は、家族制度に叛逆させるためではなくて、從順にして能率の高い家庭奴隷を作るためであつた。また女子に職を與へたのは、その階級意識を目ざますためではなくて、廉價にして然も能率の高い奴隷を得るためであつた。そこで單なる技術の範圍以上に踏み出さうとする敎育の

効果を打ち消すために、『勞働の神聖』と、『母性の神聖』とが唱へられるようになつた。『母性の神聖』は謂ゆる賢母良妻主義が、主義そのものから若い女性の興味を惹くには、餘りに古く色褪せてしまつたので、青鞜社同人が隱居間際の置土産に輸入した一種の流行語を借用して、若い娘の氣を惹くように色揚げしたものにすぎない。

けれども資本家の說く『勞働の神聖』は、自由な勞働者の行ふ『勞働』の『神聖』を意味せずに、奴隷としての勞働者の『勞働』のみの『神聖』を意味すると同じく、近來流行の『母性の禮讃』は、自由なる、自主的母性の禮讃ではなくて、奴隷としての『母性』の『禮讃』であることに注意せねばならぬ。女性が母となることは全ての生物に通有の生理的必要であり、また母たる職分が帶びる重要な社會的意義も、一九二四年の今日此頃にやつて突如として發見された新事實ではない。然るに家族制度の梏桎の長く婦人を引留める力が疑はれ出すと共に、かつ『賢母良妻主義』が省みられなくなると同時に、今更の如く『母性の神聖』が呼ばれるのは、母性といふ、婦人最强の本能を利用して、その力で婦人を傳統的な家庭奴隷の地位に引とめようとするものに外ならない。

若し彼等にして母性が眞に尊く、眞に神聖だと思ふならば、まづ第一に今日の社會が婦人から奪つてゐる『母となる權利』を婦人に返すことを主張すべきである。今日の社會は、第一に貧困の存在によつて、多くの婦人から結婚の機會を奪ひ、よつて彼等に終生母となる機會を與へた。第二に、その同じ社會は、一定の法律的制限以外に、婦人が母となる權利を行使した場合には、ひとり彼女を道德的——時には法律的にも——罪人として指彈するのみか、その子供までも『罪の子』として罪人扱ひする。若し母性が神聖ならば、その神

聖なる母性の發現とそれによつて生まれた幼兒まで、何故に罪惡視されるのであらう? 第三にそれは、無產階級の婦人から、劣惡なる生活と、過激にして非衞生なる勞働と、敎育の缺乏とによつて、精神的にも生理的にも、母となるに適した十分な資格を奪ひがちである。

かやうに婦人の人間性と共にその母性を蹂躪し、破壞することを意とせず、それによつて繁榮して居る社會組織こそは、眞の母性論者の戰ひの的でなければならぬ。にも拘はらず、不思議にも彼等は、母性の破壞者たる社會組織に向つてゞなく、却てその被害者たる婦人に向つてのみ母性の尊重を說くのである。

假に一部の人々の信ずるが如く、今日、母となることを厭ふ傾向が多少存在したところで、それは一少部分に於ける一時的な現象である? 變則的な、例外の場合のみであつて、それが永久に、一般的な狀態となる恐れはないのであるから、恐れるには足りない。のみならず、特殊の理由によつて母となることを厭ふ者に强いて母となる義務を强ひねばならぬほどに日本の人口が缺乏して居る譯でもなく、又さういふ人々にさういふ重大な義務を無理强ひにすることが社會全體の幸福を增進する譯でもない以上、例外の少數者の間に於けるさういふ變則的傾向のために、さほど恐れを爲すにも當るまい。

のみならず、婦人に母となることを嫌惡させるといふ不自然な傾向は、同じく不自然な社會狀態の所產である。婦人が、眞に自由にして自主的な母となることを許され、子供の養敎育が父母のみの單獨な責任とされずに、社會全體の責任となり、義務となる時代には――要するに何人に於ても子をもつ喜びのみがあつて子をもつ苦勞が殆んど無くなる時代には、母となる特權を好んで放棄する婦人は容易に見られまい。今日に於ては、母となることは、婦人にとつての强味である代りに弱點として利用されて居る。婦人に對して、彼

等が母となることを理由として、高等の敎育を禁じ、高級の職業を拒み、同一勞働に對して男子の半分しか與へず、政治的、法律的に無能力者たることを强ふる間は、母性は、婦人の特權ではなくて苦役である。婦人が政治的に、社會的に、經濟的に、完全に男子と平等な權利を與へられる時、自由民としての婦人が自主的に行使する權利となつた時、始めて母性の神聖を說くことが出來るのである。現在に於ては、母性は、人間としての婦人の特權ではなくて、奴隷としての婦人の苦役にすぎない。

支配階級の稱へる『勞働の神聖』が、自由民の自由な勞働を意味するものでなく、奴隷的勞働——無產者の苦役のみに適用される『神聖』であるが如く、彼等の禮讃の對象たる母性も亦、自由なる、自主的な『母』ではなくして、奴隷としての『母』であることはいふまでもない。彼等は奴隷としての勞働者の『神聖』なる『勞働』によつて自已の富を成すと同時に、奴隷としての『母性』の『禮讃』によつて、奴隷としての子供——生產機械並びに戰爭の道具としての無產階級の子孫——の增殖を圖つて居る。婦人と勞働者との隷屬の上に立つ社會を維持するに好適な敎育的信條としての『勞働の神聖』『母性の禮讃』はかういふ意味をもつて居るのである。今日では『勞働神聖』の古い呪文にかゝる勞働者はめつたにない。然し『母性の禮讃』てふ流行語が、解放戰の長い途上に讀み疲れて休息と安逸とを求める落語者によつて、安價な妥協と自已欺瞞の好材料として利用される恐れはないであらうか。

職業婦人の手紙

中村さだ子

芳子さん

久しぶりで貴女の長い御手紙に接して、どんなに嬉しく思ひましたことか、いつも〳〵走り書きの葉書の挨拶で、お互の安否だけを知らし合つて居るに過ぎなかつたのが、斯うして長い手紙を頂いて色々の感想や生活上のこま〴〵した事情をおきゝすると私も又しんみりとした心持ちになつて、長い御返事を差し上げずには居られない要求を感じさせられました。今日はよい御天氣なので、朝からお洗濯やら何やらに忙しく働いた爲、今丁度午後の三時が二十分も過ぎて、やつと手がすきました。御返事と言はふか、感想と言はふか、ペンの走るにまかせて何かと書きつけて見ませう。その中に直接貴女への御返事になることもあらうし、また單に私一人の心持ちを一人ごと言ふこともありませう。然しそれ全體をそのまゝ御返事として差し上げやうと思つてます。久し振りに行き過つて雜談でもして居る樣な氣持ちになつてペンを取ります。

先刻家の中の記付けや洗濯をして居る間にも、貴女の手紙が絶えず頭の中にちらついて居ました。それは丁度私自身がかつて經驗したことを、今貴女が經驗しつゝあると思はれたからでせう。私が女學校を卒へて二ケ年ばかり母の手傳ひに家庭の仕事で日を送つて居た頃、私はお友達で小學校の先生をしたり、事務員に行つたりして居る方々のことを、羨望の目を持つてながめて居ました。女學校を出て直ぐ其儘自分の家で日を送ることは何だかつまらなく感じられて仕方がなかつたのです。殊に父が嚴重で讀み物に對してさへ可なりの干渉を受けて居た私は、自分の腕で働いて自分の好きな樣な生活が出來るお

友達の誰彼を羨ましく思はずには居られなかつたのです。考へて見ると私は漠然と因習的な家庭生活に反抗して居たのですね。そして自ら進んで母に相談して、家から四五里も離れた農村の小學校に敎師として行くことにしたのでありました。父も毎週日曜日に歸れるところだからと許して呉れました。其の時の私の喜びはどんなだつたでせう。貴女はよく御存じのことと思ひます。村の農家の六疊を間借りして、自分の腕で稼いだ米を自分の手で磨ぐこと、自分の氣の向かぬ時にはどんなに簡單な食事でもすませば、時には好きな料理を勝手にこしらへることもある。夕飯後はランプの下で好きな本を讀む、こんな事が、今まで親の脛をかぢり、事毎に親の見張りや干渉の下に働いて居た人間にとつて、どれ程大きな自由に見へたことでせう。私はただ『職業』を持つただけでこれだけの自由を得られたのだ、何といふ嬉しいことだらうと思つて、一生懸命職務に忠勤するのでありました。敎壇に立ち自分に向つて敬慕の目指しを送る幾十人の子供等に對する純眞な責任感もあつたことは十分計算に入れなければなりませんが、それよりも正直なところ私はその責任感からよりも『職業』が自分に與へて呉れる『自由』の代償としての勤勉が多かつたことを認めねばなりません。『職業』によつて親の手から離れ得た喜びだ、事實それを經驗したもののみが知つて居る喜びだと、貴女のお手紙にもありましたが、それは全くその通りです。

然しながら芳子樣

私達は、『職業』によつて『自由 をかち得ることは確かでありますが、それは果してどれだけの『自由』でせうか。そして私達が得る『自由』の代償として私達は更に『職業』に向つて如何なるものを提供して居るでせう。若し七か八の『自由』を『職業』から受取つて十か十五の代償を提供して居るのではないでせうか。事實は全く、その通りではありませんか。私は

農家の六疊に自炊して讀書の時間と自由を持つことが出來てからといふものは、種々の才面にむさぼる樣に讀書をしました。殊に婦人問題は、小說の形でも論文や感想の形のものでも熱心になつて讀みました。そして自分達婦人が今日まで、如何なる地位におかれてきたか、といふことが私の頭の中にはつきりとわかつてきたとき、私は斯うしては居られないと言ふやうな焦燥を感ぜずには居られませんでした同じ職業で、同じ能率を持つて居ても婦人と男子とでは、給料が違つて居ます。そして給料が低いが故に却つてそれだけ低能扱ひされたり、無能視されたりして居ます。若し婦人とか男子とか言ふ性の區別を職業の上でも無意味に重要視しないで、たゞ『腕』だけによつて案配するならば女とても、もつと〳〵多くの無能な男子を部下にひき廻はし得ることは間違のないことであります。然しながら小學校まではとにかく、女學校といひ一般家庭といひ女子を低能化する樣な敎育を施して居る現狀です。婦人が一人前の人間としての能力を發揮して人生の幸福のために力を合はせることは現在の社會では拒まれて居ます。

芳子樣

私は貴女が無職業の方だつたら、『職業婦人』の喜びと悲しみに就いてくど〳〵とお話したでありませう。然し、今貴女自身が職業婦人であつて、喜びも悲しみも日々に體驗して居られるのですから、そんな必要はありませんね。たゞ貴女は豫期して居た喜びよりも年と共に苦痛の分量が多くなつて行くことを覺悟せねばなりません。結婚後二三年しか職業に付いて居ない私にとつてさへ、家庭と職業と二重の勞働に心身が疲勞して、讀書や修養の餘裕のないことを痛感せずには居られなかつたのですもの、若し此上に子供でも出來て、それでなほ外へお勤めに出なければならないとしたら、どんなでせう。心

にも體にも回復し切れぬ疲勞が積み重なつて遂にむざ〳〵死んで行くより外に仕方はないでせう。思へば情けない話しです。然し此の情けない話しが、其の儘そつくり大多數の婦人に强ひられた運命ではありませんか。私達婦人は此の强ひられた運命を、絕對に拒むことの出來ない宿命として泣く〳〵服從するより外に仕方がないのでせうか。必ずしも泣いて諦めるより外に道のないものだとは私は思つて居ません。ただ一つの活路が次の時代へ續いて居ます。それは即ち私達婦人が自分達の手に解放の斧を揮つて、婦人を束縛する絆を斷ち切ることであります。その絆は私達の個々の反抗で斷ち切るには餘りに、力が强過ぎます。それは言ふまでもなく現在社會組織の根底をなす經濟制度であります。

芳子様

大變堅苦しい理屈になつてきました。然し婦人は新聞小說以上のものを讀むことが出來ないと思ふのは、現代の進歩した婦人を知らない人達の言ふことです。私達は婦人を奴隷的な地位から解放する爲めに役立つものならどんなに堅い理屈でも、理解するに努めなければなりません。生優しいことばかり讀んだり話したり書いたりして居るだけでは私達の頭の中の消化器も遂に退化してしまひます。然し今日はもう、持ち得るだけの時間の餘裕を使ひ盡してしまひましたから、また機會をあらためて十分にお話しすることに致しませう。豫め考へて居た半分も書くことさへ出來ない忙しい私共の生活を思ふにつけても、毎日々々閑暇のつぶし様がなくて困つて居る婦人も同時代に住んで居ることが聯想されて來ます。何としても矛盾に滿ちた社會ではありませんか。

ノートから

佐藤春夫

花と鳥と獸と

我々は美しい人をほめる時には

『花のやうだ』

といふ。醜い人をたとへる時には動物のうちの何ものかを考へ出す。

我々は、即ち、知らず識らずのうちに動物を滑稽な醜いものに思ひ做し、植物を美しいものと思ひ做してゐる。――このことは、どうやら人間に共通な氣持らしい。

何故か。

我々は動物の生活を想像することが出來る。――自分たちに似てゐることを知つてゐる。しかし、我々は植物の生活に就ては、一向不案内だ。

即ち知る。我々は知られないものに就ては常

に美化してゐる。
また同じ動物のなかでも鳥類の方が獸類より
も美しいと思ふ。
何故か。
鳥類は獸類よりも力が弱いからだ。
即ち知る。我々は弱いものに常では美化して
ゐる。
又。
我々の祖先は、さまざまな動物に、さんざん
いぢめられたかも知れない。そこで、一般の動
物に對する敵意が、それが淡くなつた今日、ま
だ、侮蔑の念になつて殘つてゐるのかも知れな
い。

或る古詩

『花束を編んでゐたら、花びらの上にエロスが
遊んでゐた。それを、指でつまみ上げて盃に入
れて、飮みほしたら、その晩は、胸騒ぎがして
よく眠れなかつた』といふ意味の古詩がある。
この面白味は荒唐無稽なところにある。——
しかし、何だか意味ありげな氣がするので、そ
の値打がすこち落ちる。「エロスが遊んでゐた」
といふ「エロス」がいけないのだ。もつと意味
のない字を置き換へたいものだ。

新社會の希望と職業婦人の使命

鎌田鎚子

日本の人口を六千萬として、其の半分を女とすれば、三千萬人といふ夥だしい日本婦人があるわけです。それが皆銘々に、どんな働きをしてゐるのでせう。私は婦人問題を考へるについて、先づ大體、婦人勞働の色別をして見たいと思ひます。

(一) 婦人勞働の分類

勞働しない婦人といふ者は、富豪、貴族、その他の上流社會に極少數しかないのですから、それは問題になりません。あとは皆な勞働婦人です。然し勞働婦人とか、婦人の勞働とか云ふと、何んだか新らしい言葉のように聞えます。私はそれをおかしいと思ひます。誰でも自分の周圍を見れば分るとほり、勞働してゐない婦人といふ者は殆んどありません。只自分の家庭の勞働を勞働と見ない習慣があるので、それで多くの婦人が勞働婦人でない事になつてゐるのです。

そこで本當の事實を云へば、三千萬の婦人の中、其の大多數は家庭勞働をやつて居ります。即ち自分の家

の炊事、裁縫、洗濯、掃除、育兒などいふ事が、婦人の大多數の仕事になつて居ります。

尤も、農家の婦人は家庭勞働の外に農業勞働をもやり、小さい商家の婦人はそれ〴〵の商業勞働をもやつて居ります。恐らく、そういふ婦人達が一番の多數を占めて居るのでせう。

次に多數を占めて居るのは女工です。其の中でも紡績女工、製糸女工などが一番多數です。自由勞働、屋外勞働の婦人も可なり澤山あると思ひます。普通に勞働者といふのは、主として此の種類の事です。

それから女中といふ一種類があります。それには純粹な家庭勞働者としての雇はれ人と、料理屋、宿屋、飮食店、その外、客商賣の處の雇はれ人とがあります。近來ではカフエー、活動などに、女給といふ新らしい一派を生じて居ります。

女教員、看護婦、産婆、電話交換手、これらは最も善く知られた職業婦人です。

それから女事務員、これが近來メッキリふえた職業です。會社、銀行、商店、事務所など、到る處にあります。タイピスト、簿記係、女官吏、女記者など、皆な此の種類の中に包括していいでせう。女給も或は此の中に包括さすべきかも知れません。

以上の外、音樂家、女優、藝人、髮結、小説家、文士、女醫などいふ、諸種の技術者がありますが、それは極めて少數です。まだ外に、事業の經營者(例へば待合料理屋のおかみと云つた樣な者)、學者、宗教家などもありますが、それも極少數です。但し、此の種類の中には、個人として甚だ有力な者があります。

猶その外、賣淫婦と稱せられる一種の婦人があります。公娼、私娼、藝妓、酌婦などがそれであります。

類別は先づこんなものでせう。之に對してそれ〳〵の概數だけでも擧げる事が出來ると甚だ面白いのですが、私には今それが出來ません。只、ほんの大づかみに、自宅勞働が三千萬人中の大多數であつて、女工、女中の類が百萬とか二百萬とか、女教員から女事務員までを合せたものが、五十萬とか百萬とか位であらうかといふ事だけが、考へられるのです。

(二) 新社會に於ける差別の消滅

右の類別を今少し整頓して、婦人問題的に考へて見ると、こういふ事になります。

第一、自家勞働婦人。
第二、賃金勞働婦人。
第三、職業婦人。
第四、賣淫婦人。
第五、高級婦人。

所で、將來の新社會に於ける婦人の地位を考へて見ると、第四の賣淫婦は云ふまでもなく消滅すべきものであり、あとの四種類は皆な一つに合して職業婦人となるべきだと思はれます。ここに職業婦人と云ふのは社會的の勞働を分擔する婦人といふ意味です。

將來の新社會では、自家の勞働だの、他人の爲の勞働だのといふ區別はない筈で、總ての人が社會全體の

爲に勞働するのだらうと思ひます。そこで婦人は婦人に適當なる、各種の職業を分擔して、男子と並び立つべきだと思ひます。從つて婦人同志の間にも何等階級の差別がなく、總てが社會の爲に働らく勞働婦人であり、職業婦人である筈です。

尤も、育兒の事が特に婦人の任務であるべき事は、いつになつても變らない筈です。然しそれも、社會の組織や設備が十分に整頓して、公設の產院、幼稚園などを無料で自由に利用する事が出來るとなれば、短かい哺乳時期を除いて、其の他は母親を自由にする事が出來る筈です。そうなれば、產院、幼稚園などには、それぞれ專門の世話人が居て、（それは自然の性質上、多分婦人の仕事となるのだらうが）、總ての兒童の世話を引受けるのだから、母親としては、哺乳終止後は固より、哺乳中でも、育兒の爲にそんなに餘計の手數を取られぬ事になるでせう。

それから炊事、裁縫、洗濯などの事も、一家が別々にやる今日の風は無くなつて、ズット大仕掛な共同設備が出來るのだらうから、婦人の家庭勞働は殆んど全く消滅してしまふでせう。よしそういふ仕事が特に婦人に適するとしても、從來、百人の細君達が別々にやつてゐた事を一個所に集めてやるとなれば、十人づゝ位が交代に働らけば濟む事になるでせう。

そういふ譯で、總ての仕事が、炊事も、育兒も、裁縫も、工業も、農業も、政治も、藝術も、皆な社會の公けの事務になつて、只だ總ての人がそれを分擔するといふ事になるのだから、勞働婦人だの、職業婦人だの、高級婦人だのといふ差別はない筈です。

尤も、或る特殊な學術技藝を受持つには、それに適するだけの特殊の才能が無ければならないのだから、そういふ才能の人が、自然に矢張り『高級』と目される事にはなるだらう。然しそれは、根本が適不適の問題であつて、尊卑の問題ではない。各人がそれ〴〵自分の出來るだけの働らきをするといふ意味に於いては、總てが平等な筈である。

(三) 現今職業婦人の使命

將來の希望は右の通りとして、扨それを實現させる爲の、現在の婦人運動としては、どういふ種類の婦人達が最も有力であるのでせうか。

先づ最も多數な自家勞働婦人は、團結の便宜が無いのと、家庭を離れる事が六かしいのと爲に、運動上の直接の力にはなりかねます。但し農村運動に於いては、小作や自作のおかみさん達が、可なり有力な働らきをする事も出來るでせう。

賣淫婦人は殆んど問題になりますまい。但し公娼私娼などの中から、其の境遇の悲慘を極めて居るのに憤激して、有力な人物が出現しないとも限りません。

謂ゆる高級婦人は、略ぼ現在の地位に滿足し得るのだし、又常に支配階級の鼻息を伺つてゐなければならない事情もあるのだから、到底物の役には立ちません。のみならず、其の才力を逆用して、婦人運動の爲に大害を與へる場合が少なくないでせう。只、極少數の例外の人が、特に自ら進んで婦人運動の指導者となる

てせう。
　そこで婦人運動の主體となるべきものは、賃金勞働婦人と職業婦人との二種類だといふ事になります。經濟的の立場から云へば、勞働婦人の方に强味がありますが、智識の多い點に於いて職業婦人の方に强味があります。兎にかく此の二種類が堅く結合して、初めて婦人解放の目的が達せられるのだと考へられます。
　一般勞働運動に於いては、男の勞働者が隨分進步して來たので、智識階級の援助を借りる事の必要が少なくなつてゐます。然し婦人運動に於いては、そうは行きません。一般の勞働運動でも、まだ日本などは進步が後れてゐるので、少なくとも今後まだ暫らく、智識階級の働らくべき必要が隨分多いと見受けられるのですから、日本の婦人運動としては、特に職業婦人の活動が必要だと考へられます。職業婦人の歷史的に負はされてゐる任務、即ち其の天職使命は、實に此に在るのだと、私は確信します。

塵

富本一枝

塵も、光にむいて飛び散る時、よく、光彩を生ず。塵も、積つて山を成す。たゞ、芥となることを、私は恐れる。

火は、悦びである、力である、信仰である。火は完全である、絶體である、原人である。光炎の美しさに、清淨を見る、寂靜を見る。單一な、しかも、金色燦然とした火に、私は神を見る、祈りをあげる火こそ、私の最も愛すところ。

×

罪惡を造るものも人間だ。善を悦ぶものも人間だ

善惡共に培つてゆく、不思議な生物。

×

太陽の光と、月の光輝と、大地と、生物と、この一切萬物を生み、支配する、宇宙と呼べる最も大なる力、私は、其處に跪拜し、禮讃する。

×

私は、或る人間を激しく嫌厭してゐる。そのくせその人間の存在に無心ではをれない。嫌ひなら、嫌ひでいゝわけだのに、相手の思はくが氣にかゝる。なさけない話だ。

×

腐りかけたものは、腐りきつたと同然だ。

腐りかけてゐるものを、手鹽にかけて良くしやうと苦心するより、先づ、最初から大切にすることだそれか、思ひきりよく、腐らして仕舞ふかだ。

むしろ、腐つて仕舞つた方が、確實に所分しやすゐ。

とかく、生仲な小細工と云ふものは、中途半端な結果を招く。

×

幼兒が、お伽噺を讀みながら、しきりに口惜しがつて、本を引搔いたり、撲つたりしてゐた。

何が、そんなに口惜しいのか、と、聞くと、魔法使が、綺麗な王子を欺して、醜い鳥にした、と、いつた。可愛らしい憤慨だ、正しい腹立だ。私も、屢々、愛すべき憤慨に見舞はれる。今の世の中を見るたびに。

然し、かうした、私の憤慨も、この愛すべき幼兒のやうに、自分の指爪を痛めるだけで、いつも過ぎてゆく。

×

もう、好い加減に、腐つたものの仕末に來るものが、出てもよさそうなものだが。時間の長いことよ。

蛆と、惡臭が、生れてくるばかりだ。

太陽に代る光、月に代る輝きが無いことに、心配は起らないか、釋尊耶蘇に代つて、世の光明となり、人類を救ふものの出現遠いことは、實にさびしく、心細い。

×

耶蘇は、十字架を負ふて人類を救つた。しかし、今では、一本の十字架を負つたくらひでは、世をも人をも、救へない時代だ。

それだのに、半本の十字架にさへかゝらずに、世を救ひ、人類の光とならうとする賢明な人間ばかり揃つてゐる。

口からは盛な火焰を飛散させ、心を氷石のやうに冷く凍らせてゐる仲間ばかりだ。

荊冠を頂かず、己は殺さずにそのまゝに置いて、しかも、眞理を說き、信仰を說く、これが笑ひごと

でなくて、なんとしやう。

×

人間皆が、自然の所得に滿足しあふ時、そこにはじめて安定がある。平和がある、だが、この滿足に生き得る人間は實にすくない。この滿足に住することの出來ない人間を數へることは、天の星を數へることと同じで、無數だ。

×

働かずに飯を喰ふことは罪惡だ、と、敎へてもらふことは大きな恥辱だ。しかし、この大きな辱恥の痛さを知らぬ人間がまだまだ多い。

×

逸れ矢を恥じて、矢を射れないやうでは、いつまでたつても的は射抜けぬ。持つた矢が全部流れ矢になつても、それは決して恥ではない。逸れた矢でも一本一本に的を射抜く心がこめられてゐたら、やがては、見事に的を突き抜くことが出來る。

危險なことは、一本や二本逸れても、未だ矢がある、と、云ふ依賴心だ。つねに依賴してかゝるこの態度こそ、恥づべきことではなからうか。

×

美しく强き光焰を放つて立つ、不動明王の姿、それは最も偉大なる力。恐れもなく、つねに勝たる相一切の力を集注しきつた頂上。一切を認め、燦然として立つ不二の光明、無始無終の美しき像。

弱き者よ。來て、光焰の中に己を燒る不動を見よ。

×

人には人の物差がある。自己の物差で人を計ることは愼むべきことだ。

×

無暗みと、感心することもよくないし、無暗みに感心しないことも、いゝことではない。前者にに淺慮がつき纏ひ、後者は頑固が供となる。

彼女の運命

龍野久子

事務室にて

正雄「靜子さん、貴女はまだお仕事がおすみになりませんか。おすみでしたら御一緒に歸へりませう」

靜子「えゝ、もう直きすみますわ。待つて下さらない？五分間、そしたら御一緒にお供さして頂けますわ」

正雄「五分間？いや十分間でもかまひません。どうせ急ぐわけではありませんから。なんなら、僕、ソロバンを手傳つて上げませうか。」

靜子「さうう。毎度どうもすみませんれ。では一寸此二頁だけしめ上げればいゝんですから、私讀みますからどうぞソロバンをとつて下さいれ。」

正雄「なに大した骨の折れる仕事ではなし、此れ位なら手傳はしてもらう方がお禮を言はねばなりませんよ、ハハハ」

靜子「あゝ、どうも有難う。すみませんでしたわれ。その代り私、今日はお給金をもらつたから歸り途で、おごつて上げますよ。いゝでせう」

正雄「それはどうも痛み入りますれ、僕だつて給料を貰つたのですから、手傳はしてもらつたお禮におごらうと思つて居るのです。」

靜子「どうぞ。では歸りませう」

喫茶店にて

正雄「おゝすつかりいゝ氣持になつた」

靜子「あなた、隨分お弱いのれ。ビール一本位で、そんなに眞赤におなりなさるんだもの、でもそれがいゝわ私大酒飲みは大きらひよ」

正雄「そろ〳〵歸りませう。月が出て居ますれ。省線を下りて、あの並木道のところあたりで、貴女のいゝ聲でセレナーデでも一つきかしてもらひませう。」

それから十年經つた

靜子（結婚しなかつた）「あの頃は全く愉快でした。自己の獨立、それ以外に、私は何も考へて居なかつた。一個の獨立した婦人が獨立した男子さ對等に交際すること は愉快なことであつた。私が職業を持つ以上、私は獨立の婦人として何處までも男子と對等に生活して行けるものと自信して居た。だから私はあの人の熱烈な愛情で以てしても、家庭さいふ牢家の中に傳られることを拒絶したのであつた。然しそれが何よりもの誤りであつた。私は今も「職業」を持つて居る、そして「獨立」して居る。けれども私の此の年齡、若く見せる様に身装りしてまで若い娘達の中に混じつて居なければならぬ心苦しさ。年と共に失業の影は私の「獨立」をおびやかして來る。あゝ私はあの時、あの人の申込みを受けて家庭に、は入つてゐれば、今頃になつてこんな心配なぞをしなくてもよかつたらうに。」

靜子（結婚した）「私は間違つて居た。男の愛情にひかれて家庭の人となつたばかりに、私の獨立と私の自由は失はれてしまつた。私の得たものは何だらう。煩はしい家庭勞働と育兒の外に何があらう。若し一つあるとすれば、月々の給料日にさえない夫の顔を見るの義務があるだけだ。あの顔、あれがどうして十年前にあれ程たのもしかつた男の顔と一つに思はれやう つく〴〵嫁になつちまう男の愛情といふワナに、はまつたばかりに、私は尊いものゝすべてを失つたのだ。私が今日まで職業に就いて獨立して居たなら。私は今なほ多くの自由を樂しむことが出來たであらうに。」

大地の底から響く聲

靜子よ。お前の不幸の源は盲目といふことなのだ。社會の根底を見拔く目が開いて居ないからなのだ。

税金の眼は光る

――タイピストの家計簿より――

鈴木茂三郎

一

なにごとも宣傳の世の中にせよ、ちかごろ政府も拔け目は無い。『公債の民衆化』なんぞと、煽てし財布の底をはたかせることに餘念ない。

此頃も勤め先きの庶務課長から所得税申告書を受取つて『正月から增俸十圓で助つたと思つたら、いよ／＼所得税を絞られる』と、悄れたものの、さて渡された税務署の申告書を見ると『申告は四月中、遲れたら特典がなくなる』と特典を光らせて、税額を圖解にした巧妙な宣傳ぶりに先づ感服させられた。

が、私にいつも脊を向けて窓際の机に獨りぼつちでタイプライターをピアノと心得るM女史も、やはりはじめて宣傳的納税申告書をもらつたのだ。めづらしくも振り向ひて、M女史はかう話しかける。

『わたし月給が六十圓、それに二期の賞與が百廿圓て月收七十圓よ、所得税は百分の五の四圓になるがてもこたえるわ、だけど……』と税務署が特典を光

らせたやうに、M女史は「だけど」、と念入りに力瘤を入れて、『だけどやつと税金を納めて一人前になれることは嬉れしいわ』と金歯をむき出して笑つたのである。そこで私も「だけど」と云はざるを得なかつた。『だけど、一人前と云ふことと税金と關係の無いことは云ふまでもない。だけど其れよりも、やつと税金を納めた、などと夜でも明けたやうに考へることは間違ひである。やつと、どころか税金の負擔者は實は働ひてゐる私たちなのである。私共はうかうかと氣附かないで租税を納めてゐたのだ』と私は口を尖らせたのである。私がM女史に口を尖らせたことは、同時に所得税申告書を受取らない月收七十圓以下の、腕や手や足を、ほんとうに働かせ、これを流行語で云へば勞働力を支配人や社長や、主人に賣り込むことによつて、御飯をいただいてゐるたくさんの人たちにも、話しかけたい言葉である。

　或る財政學者が、産聲をあげた赤ちやんの、此の世の空氣を吸ひ込むのと、生れたといふことによつて、税金を吐き出すことと、どちらが先きだらうかと奇問を投げつけたやうに、私どもは生れ落ちると一人前の納税者にされてゐる。が、勞働力を賣ることの出來るやうに成人するまでは、親か兄姉か、誰れかしら其の働きによつて納税の代りをしてくれる。それほど私どもは納税の重大な負擔者である。と云ふそのことは、大體有産者ばかりが納める表向きの直接國税の納税額によつて、それも他人を餘分に働かせ、それで儲けた金のぽつちりを納めるのではあるが、それを有權者とする今日の選擧制度が不合理だと云ふ、普選論の一とつの論據にもされてゐる。

二

　手つとり早い話は家計簿についてまづ仔細に吟味することである。M女史が前月も前々月も、そして今月も來月も、恐らく棺を覆ふまで續くであらう月

末の憂鬱、いつも物思ひの種になる家計簿を失禮ながらこゝに拜借する。M女史は老母と弟の三人暮して彼女が一家の柱石である。

タイピストの三月中家計簿（單位圓）

家賃	六疊、四疊半、二疊	二五・〇〇
屋	二斗一升	七・一四
三河屋	（砂糖三斤、味噌五百目、醤油一升一合、洗濯石鹸その他）	三・九四
八百屋物		一二・五〇
母と弟小遣		三・〇〇
自分の小遣	内電車賃二圓八十錢	九・三〇
雑費	夜警賃、友人の病氣見舞、諸掛り	五・〇二
合計		六四・九〇

M女史の説明によると新聞雑誌、本も買へない。本と云へば月遅れの雑誌を神樂坂の夜店で弟に買つてやつた位ひのものだ。年二期の賞與は衣類そのほか借金の整理にもあてるから、月給六十圓ではなんとしても遣り切れない。そこで月末憂鬱症に襲はれると云ふのである。がM女史の月末憂鬱症には同病相憐れむの情には耐えないがこゝては同情の程度で御免を蒙るとして、問題になることはこの家計簿のなかにどれだけの税金が隱されてゐるか。言ひ換えると不覺にも知らないでいくらの税金を納めつゝあるかと云ふことである。

元來租税はその負擔が誰れに歸着するかと云ふことによつて、直接税と間接税の二たつに區別してある。納税者は生産者であつてもそれが明白に消費者に轉稼される。と通俗に解釋されるものが間接税である。前に掲げた家計簿について先づ間接税の吟味から始めよう。醤油の税金は一升について一錢七厘五毛だから、一升一合を煮物に使つたとすれば月一錢九厘二毛の間接税を納めたことになり、砂糖はすこし高率で、氷砂糖などは百斤十圓も絞られるが、三盆の白砂糖になると五圓から九圓どまり、この家計簿には三斤とあるから、中白三盆にすれば一斤の値段が廿八錢でM女史一家の負擔した税金は一斤七錢都合廿一錢で市價の二割にもなる。

砂糖の話で思ひ出すことは輸入品に對する關税である。砂糖にしても世界の產地はジャワであるが臺灣の砂糖會社を保護するために、百斤三圓十錢の輸入關税がかけられてゐる。でつまり臺灣の砂糖は百斤八圓五十錢が生產のコストであるが、輸入ジャワ糖に比べて關税の保護があるから十一圓六十錢までは、引き上げて賣ることが出來るゝて結局私どもは二重の間接税を背負はされた勘定で、斯くなるとお汁粉もウカツには喰べられないと悲觀もする。關税はもちろん砂糖ばかりではなく現行の税法による、と千五百八十九品の多きに及んでゐる。そして近頃の關税政策の要諦は、生產業を直接保護することと働き手の生活費を安くして賃銀や俸給を引き下げることの、目的を達するところにある。

なほ遺感なことには此の家計簿はM女史が他人の私に暴露したものであるから、從つて支出がこまかく類別して無いことである。婦人と子供ばかりの世帶だから酒は呑むまいが、煮物用の味淋は一合について消費税三錢三厘、一家の柱石なるM女史は、『私は木綿主義よ』と同僚に鼻を蠢めかすやうに、いつも木綿と云つても瓦斯糸ではあるが、これがまた市場價格の一割にあたる税金を納めたものである。反三圓五十錢の木綿なら三十五錢の税金が含れてゐる。

木綿主義のM女史にしても、過勞のために病氣にはなる。まして老母は藥瓶を抱えてゐる日が多いらしい。とすれば迂濶には醫者にもかゝれないから賣藥で効能書に滿足することもあらう筈、これが定價の一割、醬油や砂糖には印紙がはつて無いが、賣藥には税金が切手によつて示してある。

これらの間接税が家計簿の上に、どれだけの位置を占めるか。前にも云つたやうに支出のこまかい類別が無いから、計算は出來ないが、お辨當代りに丸ビルの喫茶店で、ドーナッツとココアを一杯のむと（都合二十錢）それに支拂ふ關税が八厘七毛になるこ

とを思へば、毎月私どもが支拂ふ税金は相當の額にはなる。

之れは電車のなかでの話ではあるが、田舍から花見に上京したらしい母親に、女學生らしい娘さんが頓狂な聲で叫んだのである。

『お母さん、切符は往復お買ひなさい。一錢の割引があつてよ』娘さんの無智を滑稽にさへ私は思つた。それは割引ではない。税金の關係である。五十哩未滿で三等なら通行税一錢を徴收されるが、往復券を一回に買へば即ち通行税が一錢で足りる。家計簿の電車賃二圓八十錢のうちには二十八錢の通行税が含まれてある。そこで私どもが考へねばならないことは、戸外に出れば七人の敵ありと云ふことではなく一歩を踏み出せば税金の伏勢に襲はれる。お勝手の流し場に蟠居してゐても、税金は蛇のやうに執念深くすべての品物につきまとつてくる。即ち日常生活に於て租税は重過ぎる負擔であり、切り離すことの出來ない關係に結びつけらてあることである。

三

M女史の家計簿を通してこれまで吟味したことは大體間接税についてであるが、無産者の私どもとはあまり馳け離れた世界のやうに思はれる直接國税も實を云へば多くは私どもの負擔である。これも家計簿によると、家賃の廿五圓には地價百分の[illegible]半の地租と、家屋税、別に保險料まで合財がこめてある。米屋、八百屋への拂ひも、米屋八百屋の營業税の幾分を持たされての勘定である。銀座通りは物が高いと無雜作に片附けてはならない。物が高いのは地代家賃等諸掛りが嵩むからであつて、主としては直接國税が他よりも餘計に商品の上に轉稼されてあるからである。しかしもう一歩を突込んで考へて見ると直接税であらうと間接税であらうと、それは實はすべてが私どもの負擔に歸屬するものである。M女史

のつとめ先きは丸の内の砂糖會社であるが、ピアノのつもりでタイプライターより叩き出す紙數が一日平均九十枚である。私の眺めたところでは其の見當である。とすると日曜を除ひて月ざつと二千五百枚を打つことになる。その紙片が砂糖會社の砂糖の生産に役立つものであることは之れは云ふまでもあるまい。けれどもタイプライターが此の利便を與へたのではなく、M女史の纖細な指先からこそ二千五百枚の紙片が打ち出されたのである。從つて砂糖會社がM女史を雇ふ、つまり指先きの勞働を買ふことはこの二千五百枚の利得が目あてであるから、それは全部がM女史の打ち出したものではあつても、報酬のすべてを支拂つたのでは砂糖會社は立ち行く筈がない。

　そこで斯ういふことになる。M女史には五百枚分の俸給として六十圓を支拂ふ、そして會社は二千枚分即ち二百四十圓をM女史の働きから收得する。

　それは又かういふことにもなる。(500枚＝60圓＝M女史の家計簿) これを稅金にあてはめると家計簿の上に現れた間接稅は、M女史によつて五百枚分の仕事の一部から支拂ひ、砂糖會社が納める直接國稅は(之れも多くは五百枚のうちから支拂ふべく仕組れてはゐる) 殘りの二千枚分二百四十圓のうちから支辨されてゐる。從つて租稅の負擔者はいづれもM女史である。その働きの力である。と同じやうに私ども生産者(働き手)は實は一切の租稅の負擔者なのである。

御存知でせうか

TOM

排日問題

日本人の排斥!! 米國との間に永い間苦しめられて來た問題があることは近頃三つ兒でも知つて居さうなことである。さて日本人が最も嫌やがられるのは何をいつても、太平洋海岸であるカリホルニャ州であらう。

日本にも近頃、澤山の支那人が道路修埋とか下水工事とかに澤山働いてゐるのを見掛ける。何ぜ遠い國の支那人をわざわざ連れて來て働かせるかと謂ふと、賃銀が安いから、日本人なら三圓かゝる所一圓で雇はれる支那人を雇ふ方が安上りで至極結構である。支那人歡迎といふことになる。所がこの支那人が澤山になり布哇に日本人が殆んど三分の二もゐるやうに、東京に三分の二以上の支那人が住むやうになりそれが相當の資産を握つて來たとなると、ちと問題がむずかしくなる、氣の早い連中は支那人に國をとられてしまふ等といつて騒ぎだすかもしれない。少なくとも日本の大問題となつて議會の問題位にはならう。それと同じことが米國に起りつゝあるのである。布哇が前に述べたやうに殆んど三分の二を日本人が占めて居る。カリホルニャ洲には大きな農場を持つた日本人が澤山にある。それに日本人は、米國人よりは賃銀が安い。米國の金持ちても、日本の金持ちても、安いものは安い、安いもので高い者を傭ふと同じ位なら安い方を雇ふことになり嫌が應でも自然澤山の日本人が移住することになる。其處で殊に米國のやうに機械の發達して農業にまで機械を用ふ今日となつては、人が今度はあり餘つてくる今の世の中では、この人間を他國に送り出さねばならぬ、それには植民地がある、植民地は戰爭に依る

か買收するかの外はない。戰爭は理由なしでは起せぬ。そこで調度米國の勞働者が日本人の安い勞働者の爲に苦しんでゐる、だから勞働者の肩を持つためと稱して、日本人排斥となる。日本人は、甚だお氣嫌斜となりと來るそこでこの變な關係が續くと、戰爭と謂ふ國を擧げこの人殺しが初まる。日本に勝てば、滿洲から支那の南にかけて自由自在に澤山の米國品物を賣ることが出來ることになる。結局日本といふ小さな資本國を倒して其の畑を奪ふことになる。馬鹿を見るのは日本の勞働無產者と米國の無產者勞働者である。こうした『からくり』に乘せられて苦しみ通さねばならぬのが勞働者、無產者の運命とても謂ふのであらうか?。

▽▽▽▽メーデー　五月一日△△△△

全世界の無產者のみ喜ぶ日に二つある、メーデーとロシヤ革命記念日がそれである。メーデーは全世界の勞働者が薄暗い工場と煤り返へす機械の側から、黑金のやうな腕と腕とを組み合せて、街に廣場に其力を示す日である。國を越へ人種の垣を越て互に手をとり交して眞實に世界の無產者が一つになつて資本家に對抗する國際團結の精神の最も強く現れる日である

米國の勞働者が『八時間制即時實施』を旗印しにして猛烈に資本家に戰つたのは今から四十四年前のことである。其れが口火となつて越へて一八八六年(明治二十年)の五月一日を期して全米國のありとあらゆる各種の勞働者が一齊に仕事を休んで聲を上げ歌を唱つて八時間制の實施を叫んだ、これがメーデーの最初であり、メーデーの言源即ち英語の五月一日である

日本のメーデーは大正九年に初まつて今年でその第五回を迎ふのである。年一年と數千數萬の工場の煙突の煙をとめて、此の祝日に喜び勇んでかはるものが年とともに增へてゐる。かくて日本の勞働者無產者も世界の無產者と供に進みつゝあるのである。

勞働者の天下となつた勞農ロシヤのメーデーは何を謂ふても大規模でそして偉觀ださうである。全露の勞働者の公休日であり大祭日であるこの日モスコー市の各種のあらゆる勞働者と無產婦人それにがへて赤衛軍は、廣いモスコウ市

有島武郎君を憶ふ

秋田雨雀

ブロンズの手

君の机の上で、
虚空を指してゐた、
あのブロンズの手が、
今私の貧しいテイブルの上に
やはり虚空を指して立つて居る

冷い五本の指の上に
かすかに殘る
君の手の摩滅の跡、
世評と虚名を越えて
虚無の勝利を叫びながら。

道德も
哲學も
宗教も
社會運動も
一つの「實在」の下には、
空しい影に過ぎなかつたか？

大なる自然が、
美しい魂を通して
打ちおろした復讐の斧！
幻想と指導の夢よ、
ブロンズの手の指示す
虛空の冷さ！

ブロンズの手よ！
わが心の上づつた時、
わが心のいぢけた時、
指示して呉れ靜かに
虛空の世界を！

（一九二四、四、一六夜）

世界の婦人

◎女教員の全國的團結成る

五月下旬に開かれる帝國教育會主催の女教員會第四回大會を期して全國七萬餘人の小學校女教員の大團結が生れることになつた。城東小學校の木内京子氏、女子高師附屬小學校の水谷年惠氏其の他數名の女教員諸姉が創立委員として活動し、當分の間は機關紙の發行教育問題に關する講演會、講習會、婦人問題の研究等を以つて會の仕事とするさうである。

◎桐生町勞働組合

三月初旬、待遇改善のために戰つてゐた桐生町上毛撚織會社の男女工數百名が中心となつて、桐生勞働組合を組織し三月十六日發會式が擧げられた。婦人組合員數は約三百名。勞働總同盟に加盟することになつてゐる。

◎東京聯合婦人會の活動

授産部の婦人手藝展覽會、家庭副業獎勵のために三月二十七日から三日間、神田の女子青年會館に開催されて中々盛況であつた。又社會部では今春の新事業として社會衛生思想普及のために大宣傳を行ふ由、先づ大阪から社會衛生學の大家スコット女史を聘して講演會を催し、次いでビラ、ポスター活動寫眞等を應用して蠅の驅除咯痰の始末に關する市民の注意の喚起に努力するのださうである。

勞働部では毎週水曜日に、大久保百人町の婦人ホームで勞働問題の研究會を開いてゐる。午後六時から、一般婦人の來會を歡迎するさうである。

◎婦人參政同盟と婦人辯護士

婦人參政同盟では婦人の犯罪の辯護には、婦人の心理をよく理解し得る同性の者でなくてはならないと云ふ考へから、且つ又、歐米諸國には婦人の判事まで出來てゐるのに鑑みて、近く辯護士法の改正されるのを機會として、同法に婦人も辯護士として登用すると云ふ一項が加へられる樣にと云ふ建議案を法制審議會委員長小山松吉氏宛に呈出した。同同盟では、總選擧後の議會にも同樣の建議をなすべく劃策中であると。

◎職業婦人の新傾向

一、婦人圖書館員の増加　上野帝國圖書館內の圖書館員敎習所を卒業する婦人が今年は急激に增加してゐる。兒童圖書館の館員には是非とも婦人が適當とあつて、需要は中々多いと云ふ。之は兒童圖書館の增設と云ふ事柄と共に喜ぶべき傾向である。

一、女醫の新生面　東京女子醫學專問學校を卒業する女醫は年々百餘名を算して、近年そろ〳〵そのハケロに困難を來す樣になつて來たが、この頃、之等女醫に對する新しい方面が開けて來た。それは婦人を多く使用する紡績工場等に於ける工場監督、及び女學校の校醫である。職業婦人の中ではかなりの高等敎育を受けてゐる女醫諸姉が工場に働く同性のために、工場衛生、智識の啓蒙等に資する所の多からんことを希望する。

◎婦人國際平和聯盟の大會

五月一日からワシントン市に於いて、婦人國際平和聯盟の第四回大會が開催される、この大會で議せられた重要問題は左の三項である。

一、世界各國から代表者を出して、國際間の障害を排し永久の平和を確立する方法を評議すること

二、債權國、債務國の總會を開き、將來の戰爭を防止するために賠償金の不當な條件を排して同問題の圓滿なる解決を圖るべき輿論を作ること。

三、世界各國で徹底的に軍備を縮少して平和維持に努めること。

尚この大會には日本婦人平和協會を代表して長谷川きた子氏が出席されるさうだ。

◎國際無産婦人デー

勞農ロシアでは東方の諸聯邦バシギール、トルキスタン等の婦人解放のために、掠奪强制結婚、金婚、蓄妾等の罰則を設定したさうである。

中耳炎嘆吟

岡本かの子

二た夜さの痛みは去れりこの朝の
われやいたくも腹ぞ空きたれ。

二夜さの痛みの後のいまさらに
われやかなしき耳無しにして。

耳無しのわが夜の夢に音もなく
しのび立ちたり大富士が嶺。

兩脚の眼には著けど耳無しの
われに降る雨は音無しにして。

めづらしき彌生の空のかそか雪

かそけくし見つつただに耳うとし。

現身の耳うとけれどいやすめる
心に通ひていみじき笛の音。

やよひついたち書の異書のいみじかる
笛聞き澄ますわがうとき耳。

ひとのいふ言し聞かねばあまつ鳥
そら行くかげを見つつ座るも。

わが云ふことひとの遙けくかそかにも
ものといふごとし耳うとくして。

静なるわが世とはなりぬ人はみな
もの言はずして動くなりけり。

耳うときわが静けかる日は暮れて
いや静やけくたそがれにけり。

法律顧問

片山哲

（問）妻は無能力者であるといふのは如何なる意味でせうか、例を擧げて説明して下さい（會社員の妻）

（答）無能力者であるといふのは、勿論法律上の言葉であるから、人間としての能力に何等缺くる所があるわけでない。たゞ方便として妻なる女子を法律上無能力者としてゐるのである。無能力といつても能力絶無ではなく、妻の法律上の行爲を幾分か制限してゐる、即ち制限能力といふ意味である。勝手に如何なる行爲をすることが出來ないかと謂ふと、

一、妻自身が他に貸金あつても、それを取立て之を使用することは出來ない。

二、金を借りたり、人の保證をすることも出來ず。

三、不動產又は重要な動產に關する權利の得喪を目的とする行爲をなし得ない。

四、訴訟をすることも許されず。

五、人に贈與をしたり、和解仲裁なども出來ない。

六、相續を承認し又は之を拋棄することもいけない。

七、身體を拘束せられる契約をすることが出來ない。

此等の行爲をするには必ず夫の許可を受けなければならぬ、もし夫の許可を受けずして前記の行爲をした時は、夫は自由に之を取消すことが出來る。何故、妻は自由に前記の行爲をすることが出來ない様にしてゐるかといふと、夫婦生活を圓滿にせしめるために、夫婦各自に同等の權利を與へず、妻の能力を制限し、夫の命令の下に家政を運用せしめやうといふ封建制の考へに外ならない、愛なき夫

婦も法律といふ繩を以て縛つて、妻を人形にして終へば、夫婦生活は至極圓滿なりと考へたのであらう。全くつまらぬ規定である。

(問) よく問題になる治安警察法第十七條とは如何なる法律ですか、(目白女大生)

(答) 惡法と稱せられてゐる治警十七條も本年か、來年かの議會で遂に廢止になるであらう。まづ條文を擧げて見やう。

左の各號の目的を以て他人に對し暴行、脅迫し若は公然誹毀し又は第二號の目的を以て他人を誘惑若は煽動することを得ず。

一、勞務の條件又は報酬に關し協同の行動を爲すべき團結に加入せしめ又は其の加入を妨ぐること。

二、同盟解雇若は同盟罷業を遂行するが爲、使用者をして勞務者を解雇せしめ、若は勞務に從事するの申込を拒絶せしめ、又は勞務者をして勞務を停廢せしめ、若は勞務者として雇傭するの申込を拒絶せしむること。

三、勞働の條件又は報酬に關し相手方の承諾を強めること。

耕作の目的に出づる土地賃貸借の條件に關し承諾を強ゆるが爲、相手方に對し暴行、脅迫し、若は公然誹毀することを得ず。

以上の樣であるが、問題の多いのは、ストライキの場合に激勵する演説が煽動になつたり、罷業中他から生活費を與へやうといふ同情が誘惑になつたりするのである。根本は同盟罷業を罪惡視してゐるために起る事件で、十七條が既に其の思想から生れ出てをるものである。のみならずこの規定は勞働組合法と全然背馳するものであるから、組合法が制定せしとすれば當然この惡法を廢止にすべきである。委しくは前記條文につき御判測を乞ふ。

(問) 新聞紙法でよく編輯人などが處罰せられることがありますが、あれは如何なる罪でせうか、(小石川雜誌子)

(答) この新聞紙法も隨分非道い法律なので、常に問題になるのである。安寧秩序を紊し、風俗を害

する事項を掲載した時は、其の新聞、雜誌の發行人、編輯人は共に六月以下の禁錮又は二百圓以下の罰金に處せられる。如何なる事項が安寧秩序を紊してゐるかは、一に裁判官の判斷に委せなければならぬ、記者の如何に拘らず、發行編輯人は常に此等の責任のあるものである。其の事項がもし朝憲紊亂にわたる時は印刷人も共に處罰せられる。安寧とか朝憲とか、漠然たる事項にせずにモット明瞭に列擧しやうてはないかといふ議論が出てゐる。この法律も近いうちに改正せられるであらう。

(問) 利息制限法を問ふ(深川一貧民)

(答) 元金百圓以上は一ヶ年二割の利息、百圓以上千圓以下は年一割五分、千圓以上は年一割二分の利息しかとることが出來ぬ。もし契約でこれ以上の高利をとられる樣になつてをつても、裁判上の問題になつた時は裁判所では、これ以上の利息は皆削られて請求することが出來ぬ樣になつてゐる。しかし一旦支拂つたものは取戻しは出來ぬ。

(問) 出生屆は何日内にすればいゝのですか(小石川花子)

(答) 子供が產れてから、十四日内に屆出をしなければならぬ。其の屆出書には次の事項を記載しなければならぬ。

一、子の氏名及び男女の別、
二、子が私生子又は庶子である時は其の事、
三、出生の年月日、場所、
四、父母の氏名、本籍職業、
五、子の入るべき家の戶主の氏名本籍、

是等は戶籍法に規定せられてゐる、本籍地に出してもよし又寄留地に屆出てもよろしい。

紙鐵砲

職業婦人とは、近代産業の産物である。だから昔には、今日の意味で云ふ職業婦人といふものはなかつた。併し今日の職業婦人といふものそれ自身が如何なるものであるか？　勿論一人前らしい顔で、月給をとつて、生活をして居る人間ではあるらしい。然し、今日の世の中は、富者か男か何れにか媚を提供しなければ、必ず貧苦が襲來するといふ有様である。

　そこで謂る職業婦人といふ中の女事務員たる者は、如何なる内面があるか。そこには、有らゆる複雜な事情があるのだ。さなくば、あれ程に奇麗に美つくしく幸福らしく生き得ることは出來ない。近よりつゝある誘惑、一歩ふみ込んだ危地に心づかずして、このまゝに甘じて夢の夢をみて暮すのは、職業婦人の名を汚すべきものだ。起てよ職業婦人！、覺めよ、勞働婦人!!!

　實に今日の職業婦人が、一見したところ賤業婦とブベッされる女に比べて何程の差があるのか？　根下りの新蝶々に、サンゴの根がけをかけて、すかし彫りの甲櫛を輕くこし襟つき八端に中夜帯をキリッとしめて、素足に南部表の吾妻下駄といふ姿が、親の意見をきくまいといふ流行の耳かくしに、御飯しやもじに、ナメクジのはつた樣に光る何とかピンをさし、芝居の引幕よろしくの着物に胸高のおびしめてといふ姿に、時勢の進化とやらの流波にもまれて、變化したにすぎない。

　今日の職業婦人はこれを以て甘ずべきか？　否！　奮へ職業婦人！同志等よ!!!

（てる）

（七十三頁よりつゞく）

を一日喜び勇んで練り歩き遂にクレムリン宮を背に一日赤い廣場で過古にあつた苦しみの經驗と勝利の笑の裡に終るとのことである。

『指輪』

宇野千代

『貴方は、到頭指輪を買つて呉れなかつたのね?』

『その指輪で思ひ出したんだが、俺は斯う言ふ小説を書かうと思つて居る。――或る男が指輪を盗んだのだね、女に遣りたくも買つて遣れないもんだから盗んだのだが、それが後で解つて捕まるんだ。さうすると、女は急にその男が可厭になる、さう言ふ小説を書かうと思ふんだ。』

『――作者は、餘り女に惡意を持ち過ぎるわね?』

『女に惡意は持たないよ。只、そんな女に惡意を持つだけさ。』

『…………』

『…………』

『貴方はそんな事を言つて、あんまりだとは思はなくつて？』
『思はないね』
『あれで、當てこすりを言つた積りなのね？私が、指輪が欲しいつて言つたもんだから、それでそんな小説を思ひ附いた振りなんかして、』
『俺あ、金がないから買つて遣れないよ。』
『私の欲しいつて言ふのは、只の蒲鉾型の指輪なのよ。五圓も出せば結構買へるものなのよ。それを貴方は臆却がつて居たのだわ、――そんな貴方が何て盗んだりなんぞするもんですか。そんな馬鹿げた小説を考へ出したりする暇に、ほんたうに盗んで見ると好いわ！今直ぐ、盗んで來ると好いわ！』
女は唆しかけるやうに言ふ。男は、糞！今に見ろ、ほんたうにぬすんで來て遣るぞ！とでも言ひさうに、忌々しげに齒を嚙んで居る。
――二人とも、三方壁の薄暗い部屋に寢そべつて居る。――

太さんの夢

大戸千枝子

太郎さんのお家の前は、ひろい〳〵廣つぱです。毎日々々、大ぜいのお友だちがあつまつて、いくさごつこをしたり、日向ぼつこをしながら、メンコをしたりして、日の暮れるまで遊んでをります。けさども、今日は、朝から、寒い〳〵風が、ビユウ〳〵唸りごゑをたてていてゐるので、誰ひとり出て來るものはありません。

仕方がないので、太郎さんは、お母さまがこしらへてくださつたおこたの中にはいつて、ぢいつとしてをりました。とき〴〵、ヂリン、チリン、と、ご門の鈴の音がひびいて來ます。そのたんびに太郎さんは、おこたの中から出て、障子のガラス越しに、ご門の方を見ました。けれども、そこには、だあれもをりません。きつと、いたづらつ子の風が、戸をゆすぶつて逃げて行つたのにちがひないのです。

ガラ〳〵、

たしかにご門の戸があきました。こんどこそ、たあ坊か、みいちやんかが遊びに來たのだらうと思つて、おこたの中から出てみます。すると、八百屋の松公です。

『お坊つちやん。』と、松公は、さう言ひかけます。けれども太郎さんは、返事もしないで、おこたの中へ、はいつてしまひました。

お母さまは、お勝手から出て來て、八百屋と、何か話してをりました。が、やがて、太郎さんの

ところへ來て、

『まあ、坊やは、ほんとにおとなですのね。』と、仰しやつて、またお勝手へ行つてしまひました。

太郎さんは、しばらく風の吹きあれてゐる人ひとりゐない原つぱを見てゐましたが、急に立ちあがると、お戸棚から、二つ、新らしい箱をもつて來ました。

太郎さんは、小さい箱から十人の鉛の兵隊さんを出すと、おこたの上にご本をしいて、ならべました。そして、大きな箱から、大砲をひつぱり出しました。

太郎さんは、大砲のさきに、コルクの玉をこめて、おこたの上に砲身だけをのせたのです。

太郎さんは、さうして、鉛の兵隊さんを的に、コルク玉の七砲を打らはじめたのであります。けれども大砲のさきから兵隊さんまでは、一尺もはなれてをりました。太郎さんがいくら片方の眼をつぶつてねらひを定めても、ちつともあたらないのです。で、しまひには、だん/\大砲を兵隊さんのそばへ押しつけて行つて、一寸とはなれてゐないくらゐになりました。

そこで、太郎さんは、またも片方の眼をつぶつて、いきをころしてねらひを定めると、

ドン、と打つたのです。

『やあ！』

太郎さんはどんなにうれしかつたかしれません。鉛の兵隊さんは、はじめて、コルク玉にあたつて、もんどり打つて、おこたの上からころげ落ちたのであります。

その次も、その次も、十人もの兵隊さんを、一人のこらず打ちおとしてしまひました ことに鉛の兵隊さんが、おこたから五寸も遠くへ落ちやうものなら、太郎さんは得意で得意で、思はず大きな聲で、お母さんを呼んだくらゐでした。

けれども、一ど、二ど、三ど、いくたびもくりかへしてゐるうちに、だん/\いやになりました。

だつて、太郎さんが大砲をうてば、きつと兵隊さんがもんどりうつて、ころげおちるのですもの。

太郎さんは、ばら〳〵に落ち散つてゐる兵隊さんを、ぼんやり眺めてゐました。と、とつぜんにすてきな考へがうかんで來たのです。

太郎さんは、もう長いあひだ取り出さないでしまつておいたおもちや箱を、お戸棚の隅つこから、ひつぱり出して來ました。ガラ、ガラ、ガラ、と、お布團の上に、ひつくりかへしました。金太郎さんだの、キユーピーさんだの、片足の兵隊さんだの、一本角の牛だの、象だの、たくさん〳〵の玩具が出て來ました。

太郎さんは、お母さんが縫ひものをするのに使ふ糸を出して來て、いち〳〵その玩具を、一本の糸にくくりつけました。そして、ちやうど、ほし柿を軒の下につるすやうに、簞笥のとつてにつりさげました。

太郎さんは、さうして、その玩具たちを、コルク玉の大砲で打ちはじめたのです。

ドン、

太郎さんは、ねらひをさだめて、打ちだしました。けれども、かんじんの玩具は、ちつとも搖れも動きもしません。それどころか、大砲玉の方が、はねかへされてしまふくらゐです。

太郎さんは、がつかりしてしまひました。けれども、もう一ど、思ひかへして、打つてみました。が、やつぱり同じやうに、大きなお人形さんにあたると、コルク玉は、勢ひよくはねかへされてしまひました。

太郎さんは、むつとしました。大砲を、おこたの上にはふり出すと、いきなり珠數つなぎになつてゐる玩具を、簞笥からひきちぎつて、一つ、一つ、疊の上に、たゝきつけました。

太郎さんは、もう玩具と遊ぶのは、いやになりました。そして、ひよつと、そばにあつた繪本を

取り上げました。太郎さんは、中の繪を、そらておぼえてゐるほど、知つてゐました。ですから、いゝかげんなところを、パラリ、あけました。

お山の中のけしきがでました。いく人もの男の子や女の子が、河をはさんて、お猿さんとものを投げつこしてゐました。お猿さんは、まつかなおいしさうな柿を、子供の方へ投げつけてゐました。男の子は、大よろこびて、その柿をひろつてゐます。そして、お禮にキャラメルをお猿さんに投げかへしてゐるところでした。

太郎さんを、それを見ると、急に、

『お母さま、お母さま、あめちよこちやうだい！』と、どなりました。

お母さまは、すぐあめちよこを持つて來て下さいました。

太郎さんは、手ばやく皮をむいて、お口の中に入れました。そして、お口をもぐ〳〵させながら、おとなしくおこたの中に、はいつてゐました。

が、たん〳〵あたりがぼんやりして來ました。やがて、太郎さんはお口をとき〴〵しか動かさなくなりました。

ジン、ボン、ジン、ボン、

時計が鳴り出しました。けれども太郎さんは、ぼんやり、それをきいたゞけてした。

ゴー、スー、ゴー、スー、

太郎さんの鼾が、きこえはじめました。すると、今まで、疊やお布團の上にころがつてゐた玩具たちが、急に、もく〳〵起きあがりました。

『とう〳〵寢入つたぞ！』

『しめた！』

みんなは、ごや／＼とおこたの側へかけよつて來ました。そして、口々にしやべりはじめました。そのやかましいことといつたら、まるで、蜂の巣をつゝいたやうです。

『しーッ！』と、キユーピーさんが、いひました。『みんな、そんなに騒いだら、坊ちやんが起きてしまふよ。』

みんなは、びつくりして、口をおさへました。そのとき、とつぜん、

『氣をつけーッ！』と、どなつたものがありました。それは鉛の兵隊の大將さんでした。

大將さんは、さう號令をかけてから、長い髯をなでく／＼、サーベルをがちやく／＼させて、一だん高いお布團の上に、のぼつて行きました。

『諸君！　私は、ごらんのとほり、大將さんであります。私は、このお坊ちやんのところへ來てから、まだ一週間ぐらゐしかたちません。私は、部下の兵隊十人といつしよに、買はれて來たのであります。ところが、こゝのご主人である坊ちやんといふ人は、實になさけ知らずのわがまゝものであります。私たちは、今日も、大砲の玉で、さん／＼打ちたほされたのであります。おかげで、部下の一人は、首をまげられてしまひました。一人は、銃を折らてしまひました。一人は、足を折られてしまひました。大將さんの私まで、ごらんのとほり、軍人の魂であるサーベルを、こんなにまげられてしまつたのであります。』

大將さんは、さういつて、まん中ほどからくの字なりにまがつたサーベルを、皆に見せました。

『私は、軍人として、もうこれ以上がまんすることは、できなくなりました。見れば、みなさんの中にも、角を片方なくしたもの、片足しかないもの、耳のとれたもの、顔のひしやげたもの、たれ一人、負傷してゐないものとてありません。そこて、けふ、こゝに、みなさんといつしよになれた

のは、かならずお神さまのお心だらうと思ひます。そこで、今のうち、みんなにして、このわがまゝものの坊ちやんを、うんとこらしめて、二どと私たちをいぢめないやうにしようではありませんか。わかつたお方は、右手をあげーいッ！』

大將さんは、右の手を高くあげて、どなりました。

みんなは大將さんの言葉をきいて、なるほど、と思ひました。そして、十人の兵隊さんが、みんな手をあげたのを見ると、一人、また一人、だん〳〵手をあげて行きました。

大將さんは、それを見ていひました。

『皆さん、よくご賛成下さいました。それでは、私が、號令をかけますから、一どに、どつと「とつかん」いたしませう……おこたのまはりを取りまけーい！』

大將さんは長いサーベルをぬいて、さう號令をかけました。みんなは、棒だの、ラッケットだの、球だの、めい〳〵武器をもつて、おこたのまはりをとりまきました。そのとき大將さんは、また、號令をかけました。

『突擊！　わーッ！』

みんなは、いちどきに大きな聲をあげながら、おこたのお山をはひ上がりました。

と、ちやうどそのときです。

『ウ、ウ、ウーム』

太郎さんのうなりごゑがひびいて來ました。そして、二つの大きなお眼々が、ぱつちりあけられたのです。それといつしよに、今までおこたのお山によぢのぼつてゐた玩具たちは、ぴつたり動かなくなつてしまひました。（をはり）

――一二、一――

原稿募集

【論　文】十五枚位（四百字詰）
【時事批判】長短隨意
【創　作】二十枚位（同　前）
【感想文】詩歌、其他飜譯など

締　切（毎月五日）

宛名は、職業婦人社內
「婦人と勞働」編輯部へ

▲編輯室より▼

○本號も發行が遅れました。讀者の寬大な御心に訴へて努力の足りなかつた事を許して戴きます。來月號からは期日通りに出し度いと思つてゐます。

○前月號は繰り返すまでもなく、活字の配置の不都合を深くお詫び致します。然し經費に支配されての行爲とみて下さるならうなずいていたゞけると思つて居ります。

○去る三日報知新聞社講堂に於てわが社主催のもとに第二回婦人思想問題講演會を開催いたしました。講師は私共の雜誌を直接間接に御援助下さる市川房枝氏大山郁夫氏長谷川如是閑氏の方々でした。御家庭の都合で神近市子氏の出席されなかつた事はかへすがへすも殘念に思ひます。また開會間際になつて、室伏高信氏から病氣で出られないといふ報知を受けました。「それでも」と思つて大森の御宅まで、迎へにいつたが、病氣でれてゐるはずの氏は御留守でした。氏のピヤカキを遺憾に思ひます。當日は雨にも拘はらず豫想以外の盛會でありました。委しい報告は來月號に。

○經營はいつも苦しいので贊助員を募つてゐます。贊助員は向後毎月一圓以上の宣傳費を負擔する事。

○私どもの手でやらなければならない澤山の仕事がありますが微力な私共はまづ手近かな小さなことから實行にとりかゝつていきたいと思ひます

○毎月時を限つてしんみりした讀書會なり茶話會なりを持ちたいと思ひます。

○皆さんの希望を遠慮なく寄せて下さい。私どもはやゝもすれば理想論に渦かれて夢の國をさまよふ傾がないでせらか？私共は理想へ到達する道程として現實の階段をふむ實行者でありませう。

○代理部は、各地からの注文で賑はつてゐます。品質の良いのと非常に廉いといふ事が呼物になつて居ります。どうぞ一度おためし下さいませ。

定價		
一部	金三十錢	郵稅五厘
半ケ年	金一圓八十錢	不要
一ケ年	金三圓六十錢	不要

廣告料		
特等	一頁	四十圓
一等	一頁	三十圓
二等	一頁	二十圓
	半頁	十圓

四回以上割引あり

御注文は總て前金で願ひます。
御送金は振替に御拂込み下さい。
郵券代用の際は一割增の事（五厘切手にて）。
誌代の領收書は別に差上げません
雜誌發送を以つてこれにかへます

大正十三年五月三日納本　第二卷
大正十三年五月五日發行　第二號
編輯發行兼印刷人　東京市外巢鴨町一〇一九　奥むめお
印刷所　東京市外下澁谷五三三　弘榮社
發行所　東京市外巢鴨町一〇一九　「婦人と勞働」職業婦人社
電話牛込二四四八番
振替東京六四一六〇


ホシ胃腸藥
胃腸氣痛藥
星標胃腸藥
ホシ胃腸藥
호시위장약
二十錢
五十錢
一圓
二圓